



問 子育て支援事業について

答 将来の五霞町のため、子育て支援策の充実に向け取り組んでいく

今後、ますます加速すると思われる少子化に対し、その対策を講じることが不可欠では。

問 町における少子化の動向と対策は。

健康福祉課長 出生数は、平成25年度の51人から令和4年度は23人と半分以下に減少しています。対策として、妊娠初期から子育て期、さらに、小・中学生まで切れ目のない子育て支援として子育て世代包括支援センター「八っこ」による伴走型相談支援や医療福祉費助成、入学時・出産時のお祝い金、また、就学援助制度では経済的理由により就学が困

難な保護者に対し支援を行っています。また、子育て世帯への移住・定住施策として保育料を完全無償化します。

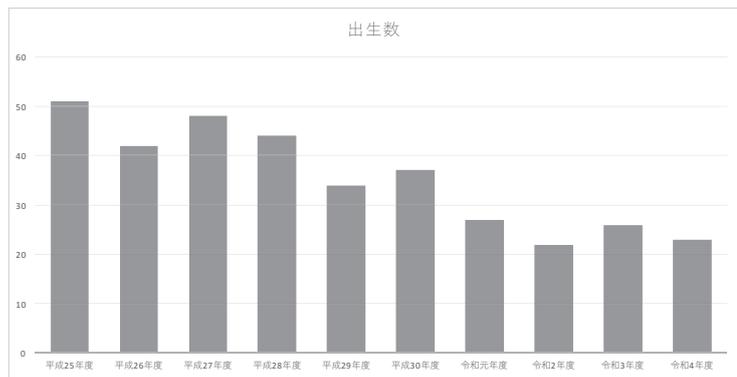
問 近隣自治体の取り組み状況は。

健康福祉課長 代表的な支援策として、古河市、境町、幸手市では、住宅を購入した場合に奨励金の支給や建物取得費の一部を補助する等独自の支援を行っています。

過去10年間の出生数推移

単位：人

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
出生数	51	42	48	44	34	37	27	22	26	23



問 今後の少子化対策について

答 少子化が社会・経済に及ぼす影響は大きく、緊急の課題として取り組んでいく

問 東小学校跡地を利用した「ごかみらい地区」の新たな計画は。

都市建設課長 宿泊施設やグランピング施設、サテライトオフィス、スポーツ施設等への活用を検討し、定住促進、少子化対策につなげていきたいと考えています。

問 放課後児童クラブの更なる充実を検討していただきたい。

健康福祉課長 本町で実施

している放課後児童クラブ2か所は、いずれも小学校低学年が対象です。今後は、全学年対象に拡充することや利用者のニーズに寄り添ったあり方を早急に検討していきたいと考えています。

問 少子化にどう向き合うか、町長の所見を伺う。また、学校給食無償化の考えは。

町長 特に若い世代が住

んでみたいと思える魅力ある町、誇りを持てるまちづくりを実現するため施策を展開していきます。今年2月に発足した移住・定住推進プロジェクトチームにおいて支援策を検討し、事業化できる施策は予算化してまいります。学校給食の無償化は、こども子育て政策の強化に向けた課題とされており、国の動向を注視してまいりたいと思います。